

第5回教育研究評議会（メール会議）について

標記会議を臨時によりメール開催した結果、承認を得ましたのでお知らせいたします。

記

1 議 題

（1）教員の選考開始について

○幾何学担当准教授又は講師の採用について

・審議内容

教職課程認定に必要な教員確保のため、後任補充を行うことについて、資料1によりご審議願います。

※令和2年3月31日付け退職予定の松岡 隆特命教授の後任

※新年俸制職員として採用予定

※テニユアトラック制適用予定

※教員公募要領については、人事委員会に一任する。

別記様式第1号（第4条第1項関係）

教 員 選 考 申 出 書

令和元年 8 月 2 1 日

国立大学法人鳴門教育大学長 殿

専 攻 名 高度学校教育実践専攻(教科系)

専攻長名 梅 津 正 美



下記のとおり教員選考を申し出ます。

専 門 分 野	幾何学	採用・昇任の別	採用・昇任 (対象者名 (歳))
任用予定職名	准教授または講師	任用予定日	令和2年4月1日
担当予定授業科目名(負担単位数)	大学院	学校支援のための教科教育実践演習Ⅰ(2/6), 学校支援のための教科教育実践演習Ⅱ(2/6), 教職基礎力開発演習Ⅰ(2/6), 教職基礎力開発演習Ⅱ(2/6), 数理認識教育(数学)の内容構成演習A(1/6), 数理認識教育(数学)の内容構成演習B(1/6), 数理認識教育(数学)の教材開発演習A(1/6), 数理認識教育(数学)の教材開発演習B(1/6), 数理認識教育(数学)の学習指導と授業デザインA(1/6), 数理認識教育(数学)の学習指導と授業デザインB(1/6), 数学・理科・技術・工業・情報・家庭を往還した教科横断型単元の構成とカリキュラム(1/11), 数学・理科・技術・工業・情報・家庭を往還した教科横断型単元の学習指導と授業デザイン(1/11), 教育実践研究Ⅰ(数学)(2/6), 教育実践研究Ⅱ(数学)(4/6), 教科教育課題設定フィールドワーク(2), 教科教育課題フィールドワークⅠ(4), 教科教育課題フィールドワークⅡ(4), 教科教育実践フィールドワーク(8)	
	学 部	初等中等教育実践基礎演習(2), 初等中等教科教育実践Ⅰ(2/6), 初等中等教科教育実践Ⅱ(2/6), 初等中等教科教育実践Ⅲ(2/6), 基礎数学Ⅰ(2/6), 基礎数学Ⅱ(2/6), 幾何学Ⅰ(2), 幾何学Ⅱ(2), 幾何学Ⅲ(2), 幾何学特論(2), 卒業研究(4)	
前任者の担当授業科目名(負担単位数)	大学院	同上	
(嘱託講師で補っていた場合は, ㊦と表示する。)	学 部	同上	
選考申出事由(コース等の名称・目的及び選考しようとする教員の役割)			
数学科教育実践分野は, 代数学, 幾何学, 解析学, 数理科学, 数学教育学の5領域から構成され, 数学理論を基にした教科内容研究および数学教育の理論的・実践的研究を行い, それらを基盤とした算数・数学教育に係る教員養成・研修を行っている。本年度の現員は, 教科専門担当3名および教科教育担当3名の計6名(教授2名, 特命教授2名, 准教授1名, 講師1名)である。 本人事は, 幾何学担当の松岡隆特命教授が令和2年3月31日をもって退職することに伴い, 教科専門担当教員の補充が必要となったため申し出る後任人事である。中学校・高等学校の免許状を出すための教職課程認定において, 教科「数学」に関する専門的事項を扱う必要専任教員数は3名である。松岡隆特命教授の転出により, 必置専任教員数を欠くことになるために必要となる人事である。 ここに, 本学の教育・研究の充実と発展に寄与できる教員の選考開始を申し出る次第である。なお, 当分野としては, 同特命教授が担当していた科目を担当可能な准教授または講師の採用を希望している。			

備考 1 「採用・昇任の別」欄中の年齢は, 任用予定日現在で記入すること。

- 2 昇任の場合、「前任者の担当授業科目名」欄は、現在担当している授業科目名を記入すること。
- 3 教員公募を行う場合は、別記様式第2号の教員公募要領を併せて提出すること。
- 4 規格は、A4とする。